

科目名・単位数	財務諸表分析 2単位	科目分類	管理会計系	発展科目
配当年次	1年次・秋学期・昼・夜	担当教員	あべ ひでとし	
履修形態	選択必修		安部 秀俊	
授業概要	<p>本講義では、これまで学んだ簿記や財務諸表の知識に基づいて、主に財務諸表から企業経営の実態および企業が抱える問題点をあぶりだしていく方法を学んでいく。ここでは財務諸表で与えられた会計数値を使った比率やその比較に基づく分析が中心となる。それは企業の経営管理者だけでなく、投資家や金融機関、取引先、従業員など企業経営に関心を持つ関係者が行うさまざまな意思決定に役立てるために、有用な情報を提供する方法である。</p>			
到達目標	財務諸表から企業の問題点や課題を抽出し、解決の方向を見出す能力を培うこと。			
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各回のテーマを教科書と配布資料に基づいて解説し、次いでそこでの疑問点、問題点などについて討議する。</li> <li>2. 各テーマに基づき、プレゼンテーションおよび討議を行う。</li> </ol>			
事前・事後学習	報告発表用として準備のための事前学習が必要である。事後学習として、講義内で使用した教材について再度読み直し知識の定着化を図ってほしい。なお、事前・事後それぞれについて学習時間の目安は90分～120分である。			
成績評価の方法	講義への取り組み（プレゼンテーション含む）で40%、課題レポート60%の割合で評価する。			
フィードバックの方法	レポートの解説は授業内で時間を設けて行う。			
履修上の注意	企業の財務諸表分析(経営分析)に興味がある者であること。			
授 業 計 画				
第1回	<p>財務諸表分析の意義・方法・資料 財務諸表分析とはどのようなものか、そしてその種類・方法などについて、更に財務諸表分析の主たる資料である財務諸表について学習する。</p>			
第2回	<p>構成比率分析と趨勢分析 財務諸表全体の構造的特徴を分析する構成比率分析、財務諸表項目の各数値を数期間にわたって比較するための趨勢比率から、その変動を分析する趨勢比率分析を学習する。</p>			
第3回	<p>安全性分析 (1) 流動性分析 流動比率、当座比率および流動資産の質の測定から、企業の流動性すなわち短期的債務支払能力について学習する。</p>			

第4回	<p>安全性分析 (2) 長期債務支払能力の分析 自己資本比率、負債比率、固定比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ比率などから、長期資金の調達と運用のバランスに関する分析方法を学習する。</p>
第5回	<p>活動性分析 資本回転率と資本回転期間の意義を明らかにし、次いで総資産回転率と経営資産回転率から、全体資本の活動性を、また売上債権回転率などから、個別資産の活動性を学習する。</p>
第6回	<p>収益性分析 (1) 売上高利益率による分析 収益性とは企業の利益獲得能力を意味し、収益性分析ではいかに効率的に利益をあげているかを測定する。まず、損益計算書における各種段階損益から取引に対する収益性を学習する。</p>
第7回	<p>収益性分析 (2) 資本利益率による分析 資本利益率は資本効率を加味した収益力を表す比率であり、財務業績の総合的指標とされる。各種資本利益率から、資本に対する効率性を学習し、次いで財務レバレッジについて理解する。</p>
第8回	<p>生産性分析 (1) 生産性と付加価値 生産性とは、生産物をいかに効率的に産出したかを意味する。そこでの産出を示す数値として付加価値が用いられるが、ここではその付加価値の計算方法について学習する。</p>
第9回	<p>生産性分析 (2) 生産性分析の指標 ここでは生産性分析の主たる指標である総資本投資効率、設備投資効率、従業員1人当たり付加価値、従業員1人当たり売上高、労働分配率、付加価値率等について学習する。</p>
第10回	<p>成長性分析 成長性の測定指標として主に用いられる売上高増加率、付加価値増加率、総資産増加率、経常利益増加率などを学習する。</p>
第11回	<p>市場評価分析 企業の財務政策や株主政策を反映している指標であるEPS、PER、PBRなどを学習する。</p>
第12回	<p>収益性分析 (3) 利益増減分析 分析の対象となる利益には当期純利益、経常利益、営業利益、売上総利益などがある。ここでは分析に使用する利益増減分析表の作成方法を学習する。</p>
第13回	<p>キャッシュ・フロー分析 (1) キャッシュ・フロー計算書 現金的裏付けの情報提供のために必要とされるキャッシュ・フロー計算書の作成方法などを学習する。</p>
第14回	<p>キャッシュ・フロー分析 (2) キャッシュ・フロー分析の指標 営業キャッシュ・フロー対流動負債比率、営業キャッシュ・フロー対総負債比率、キャッシュ・フローマージンなどキャッシュ・フロー分析の指標を学習する。</p>
第15回	<p>分析結果の総合 これまで学んだ各比率を総合して、比率の個別観察では明らかにされない全体的良否を判断するために必要な手法を学習する。レーダー・チャートによる評価法等について学習する。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渋谷武夫著『ベーシック経営分析 (第2版)』中央経済社</li> <li>・講義の際に配布する配布資料</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜井久勝著『財務諸表分析』中央経済社</li> <li>・山田庫平責任編集 崎章浩・吉村聡編著『経営管理会計ハンドブック』東京経済情報出版</li> </ul>